

福祉教育常任委員会視察研修報告

日時：平成27年1月27日（火）～28日（水）

出席者：松原 松井 松山 植中 栗津 菅沼 議長 教育部長 議会事務局

視察研修先及び目的

佐賀県武雄市 武雄市役所 ICT利活用教育の推進について

武雄図書館 図書館運営について

◎ 武雄市概要

平成18年3月に旧武雄市と二町が合併して誕生した。人口は50,443人(H.26.6現在)面積195.44km²(湖南市の約2.8倍)の大部分は山地で山林面積は50%を占める。雄大な山々に囲まれた盆地型地形のため内陸的な気候である。1,300年の歴史を持つ温泉郷であり400年以上の歴史を誇る陶芸の里である。アクセスはJRで佐賀市まで25分、博多まで70分、佐世保まで45分の地である。また、高速道路の武雄ジャンクションは福岡・佐世保・長崎への分岐点でもあり九州西部の交通の要衝として発展してきた。

今、全国の自治体ではSNS(ソーシャル ネットワーキング サービス インターネット上の交流サイト)活用の動きが急速に普及しているが、なかでも武雄市はホームページをフェイスブックに完全移行するなどSNSを活用した情報発信において最先端を走っている。また、機構部署名を分かり易くコンパクトにインパクトを与えるべくユニークなネーミングを導入している。つながる部フェイスブック・シティ課(情報係・フェイスブック係)、お住もう課(定住係)お結び課(ご縁係)、営業部ののしし課(いのしし係)海外対策課(セールス係)、くらし部がん検診率向上課(検診第一係)、こども部未来課(子育て係・青少年係)、教育部スマイル学習課(ICT教育係)などである。

一方議会は、他市のように議会基本条例の制定等には取り組んでいないが、議場内でモニターテレビを導入活用しての一般質問等を行っているし、画面上の文字通訳も実施している。会議録の速報版HP掲載および会議録データ作成の迅速化を実現している。PCの議場持ち込みも可とし、ケーブルテレビやインターネットを利用しての中継放送及び録画配信も行っている。

◎ ICT利活用教育の推進について

武雄市の学校数・生徒数は小学校 11 校（分校 3 校）2,834 名中学校 5 校 1,344 名が在籍している。ICT 教育は佐賀県自体も先進的に取り組んでいて、武雄市は電子黒板を平成 21 年度より導入し平成 25 年度末現在で小学校 87 台（67%）中学校 121 台（68%）を整備し、平成 27 年度中に小中全クラスに整備する予定である。タブレット端末(iPad)の利用は平成 22 年度に「ICT 利活用教育は重要な課題」の認識のもと、同年 12 月に市内 2 小学校の 4・5・6 年生に国の事業を使い 236 台を一人一台と整備した。導入により集中力が向上し学習状況調査での平均点が上がった。全小中学校長からの要望もあり平成 26 年 4 月から全小学校にタブレットを導入し、平成 27 年 4 月から中学校にも導入する予定である。タブレット利用の良いところは調べ学習などでの活用を行うほか小テストなどでの生徒の正誤をリアルタイムに先生のタブレットに反映することで、ピンポイント指導を行ったり、授業全体の組み立てに反映出来ることである。また、電子黒板と連携することで生徒たちの意見や解答例を全員で共有したり、電子教科書の利活用にも繋がっている。タブレットを使つての授業の大きなねらいは反転授業である。前日、翌日の授業内容をダウンロードして、家庭で動画を見てひとり学習をして、翌日学校では教え合い学び合いを中心の学習、更には発展学習やまとめ学習に繋がって行く授業形態を算数は 3 年生以上、理科は 4 年生以上で平成 26 年度より行っている。この武雄式反転授業をスマイル学習と名付け呼んでいる。

スマイル学習の目的は

- ①子ども達により意欲的に授業に臨んでほしい。
- ②先生が実態をより正確に把握して授業に臨める。
- ③共同的問題解決能力が養えるである。

まだ始めたばかりではあるがスマイル学習をやってみての調査では、よくわかった・わかったが 94%、とても楽しかった・たのしかったが 89%と答えている。児童の知識習得の効率を上げるとともに、学習意欲を引き出す授業・学校づくりである。費用的には、初期費用とタブレット代（約 3,200 台）で 1 億 2 千万程かかった。一方教師の方は、教師自らが「ICT スキルアップセミナー」を立ち上げ研修会を毎週 1 回開催して勉強しているが、立ち上げ時から動画のコンテンツ等学習システムは企業の支援を受け学校と共同で作成している。又、ICT 支援員は外部の専門業者に委託して対応しているし、支援補助員も企業にお願いしている。

質問では、

☆若い先生と 50 歳代の先生方のタブレット活用事業に対する対応、抵抗感はどうだったのかに対し、子どもたちと共に覚えながらであり若い先生も年配の方も変わらなかった。

☆予習・復習のチェックデータの読み取り等はどのように把握しているのかには、タブレットにソフトが入れているのですぐ分かるようになっている。

☆特別支援学級に対しては、障がいの程度で違うのでその子どもに合わせたソフトで対応しているとのことでした。

最後に学力の伸びる検証はもう少し長い目で結果を見たいし、スマイル学習が教育の

在り方を変えるのではとのことでした。

インターネットやスマホ等情報通信ネットワークの普及により、世界規模で社会の高度情報化が進む中、国でも学校教育において、確かな学力の育成のため、ICTも活用した教育を進め、質の向上を目指している。様々な課題が存在するものの学校におけるICT環境整備は必要であり、真摯に取り組まなければならない。武雄市の取り組みは大変参考になり、情報社会を生きる子どもたちの情報活用能力を高め教職員においても業務の効率化や教育の質の向上を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、湖南市においても検討が必要である。



◎図書館運営について

武雄市図書館は世界初（日本初）の指定管理者が運営する図書館で全国の自治体を初め連日多くの人々が視察に訪れている。（450件／H26.4.1～H27.1末）「もっと多くの人に利用して頂きたい」「365日年中無休で。行政でできなければ民間の力で」ということでTSUTAYA等を経営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）に指定管理者制度による運営を委託し平成25年4月1日新装リニューアルオープンした。武雄図書館・歴史資料館の複合施設で、CCCは図書館は指定管理・目的外使用の許可を得てスターバックスを含む蔦屋書店を設置している。市は図書館改装コスト負担し、使用区域に家賃の支払いを受ける。

拡充したサービスは

- ①蔵書数が10万冊から20万冊へ
- ②雑誌販売の導入
- ③映画・音楽充実（貸出・販売）

- ④文具販売の導入⑤電子端末を活用した検索サービス（iPad）
- ⑥カフェ・ダイニングの導入（スターバックス）
- ⑦「代官山蔦屋書店」のノウハウを活用した品揃えやサービスの導入（自動貸出機、分類方、空間など）
- ⑧Tカード、Tポイントの導入（同意、選択制）
- ⑨365日、朝9時～夜9時までの開館時間

ですが、特筆詳細は蔦屋書店の併設によりDVD 5万枚、CD 3万枚の在庫数により映画と音楽も楽しめる。TSUTAYAやファミリーマートなどTポイント提携先で使える「Tカード」で図書の貸し出しができ、セルフカウンターを図書館の本の貸し出しや雑誌購入販売（レジ）に利用すればポイントが付きます。館内で自由にスターバックスのコーヒーを楽しみながら本も読める。また、武雄図書館の本は日本全国どこからも宅急便（500円）で返却できる。平成25年4月1日のリニューアルオープンから平成26年3月31日までの来館者数・貸出利用者数・貸出冊数の比較は次のとおりである。

■ 図書館利用状況（2014年3月31日時点）

		2013年度	2011年度	2011年度対比
来館者数	累計	923,036人	255,828人	361%
	1日平均	2,529人	867人	292%
貸出利用者数	累計	167,899人	82,539人	203%
	1日平均	460人	280人	164%
図書貸出数	累計	545,324冊	340,065冊	160%
	1日平均	1,494冊	1,153冊	130%

※1日平均は休館日を除く平均値

※2012年度は4月から10月までの7ヶ月開館のため、2011年度と比較。

※1日平均は休館日を除く1日平均で計算。なお、2013年度は無休で開館。

質問として、

☆市外から4割弱の利用者があることに対して駐車場を含め市民が利用しにくくなるというような意見はあるのか。答え 新しく造るときから全国の人が利用できるよう設置条例を変えて、市民だけでなく利用者目線に立った利用者が利用しやすいように市民内外の垣根は取り外してきた。しかしながら、このような蔵書を増やして欲しいというリクエストは市民の方に限らせている。

☆蔵書点検（入替え）は何時行っているのか。答え：閉館後にしている。スタッフの勤務体制は全60名が超早番・早番・遅番・超遅番のローテーションをとり対応している。建物のメンテナンスも今のスタッフで充分できている。

☆図書館内で飲食ができることにより本を汚すようなことが多く発生するのでは。答え：あっても10件ほど/年間 利用者間で、汚すことに注意するようなマナーが発生している。

☆選書についてはどのような機関で決めているのか。答え：司書を中心に分野を決め図書館選書委員会で決定し、教育委員会が報告を受け許可している。7,000冊～8,000冊／年間 1,200万円程度とのこと。

少子高齢化の今日、社会福祉関係費が益々増大している。行財政改革は自明の理である。そんな中、武雄市では図書館を市民の生活をより豊かにするというコンセプトで、今日までの概念を取り払い、指定管理者制度を導入したより利用し易い図書館として運営されている。公の施設に、民間事業者を入れることに関しては賛否両論があるが、湖南市でも今後の図書館運営について大いに示唆を与えてくれるものであり、参考にさせていただきながら、現在までの検討や地域の特性などを踏まえ、魅力あふれる図書館をめざし更に検討を続けたい。

※自動貸出機 ↓



※検索機 ↓



※図書館内の様子 ↓

